

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 **小羊学園**

〒431-1304

静岡県浜松市北区細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2007年 11 月 20 日

第 298 号

## この子らの誕生を ともに祝う

理事長 稲松 義人



今年もクリスマスを迎える準備がはじまりました。小羊学園のクリスマスでは、イエス・キリストの誕生物語を入所者と職員で劇にして披露するのが恒例になっています。

新しい命の誕生。特に初めての赤ちゃんの妊娠は、円満な家庭を築いていくうとしている若い夫婦にとっては、この上ない喜びの知らせであるに違いありません。昨今は治療的な妊娠や、逆に避妊や中絶についての医療技術も高度になり、命の誕生が人間の意志によって左右されることも増えているようですが、実際には、自分たちの思いどおりにはならないことも多く、新しい命の誕生を待ち望んでいる人たちにとっては、自分たちのところに子どもが生まれることは、神さまからの贈り物なのだと思います。

イエス・キリストの誕生は、ヨセフとマリアという若い夫婦にとってだけではなく、私たち人間に対する神さまからの贈り物とされています。本当はそれだから世界中でクリスマスをお祝いするので。

しかし、聖書でキリストの誕生物語を読んでみると、それは社会的には祝

福されるような妊娠ではなく、出産のときも十分に整えられた状況ではありませんでした。しかし、イエスの両親となったヨセフとマリアは、この想定外の妊娠を神さまの御心と受けとめ、旅先での不遇の出産に臨みました。

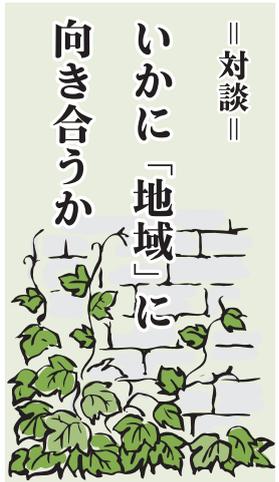
障がいのある方たちへの福祉を考えるとときに、その前提として「障がい受容」という課題があります。まず自身自身の障がいを受けとめ、そこから自分自身の人生を歩みださなければならぬからです。自分自身を理解できる人の場合は、それは自分自身の課題となりませんが、まだ幼い子どもに障がいのある場合、当初は本人の課題というよりは、両親をはじめとする周りの人たちの課題となります。

自分たちにとって希望のしるしとして誕生したはずの赤ちゃんに重い障がいがあると分かったとき、それでも躊躇なく、その子の誕生を喜び、心から祝福することは簡単ではありません。障がいのある子どものお母さんたちの手記を見ると、自分の子どもに障がいがあると初めて聞かされたときは、誰もが愕然とし、その事実を受け入れ、その子と向き合って生きていくことは大変なことのようにです。どうして私のところにこの子は生まれてきたのだろうか。何が悪かったのだろうか。周りの人たちからもおめでとうと言ってもらえない。時には家族や夫からも冷たい態度を感じてしまう。そんな母親の

心情を思うとき、社会的に理解されなにかたちで、受胎のお告げをうけたマリアも、同じような戸惑いをもったのではなからうかと、ふと思いました。

私たちが出会ったお母さん(お父さん)たちの多くは、徐々に障がいのある我が子を受け入れて、ともに新しい人生を歩き始めます。しかし、障がいのない子どもに比べて様々な面で子育ての環境の整わない中で、忍耐しつつ毎日過ごすうちに、歩き疲れてしまうこともあるのだと思うのです。そして、そんな境遇が、聖書のクリスマス物語で旅行中の不遇の出産にも関わらず、なかなか泊まる場所を見つけれなかったヨセフとマリアと重なるような気がするのです。

だとすると小羊学園は、マリアの出産のために馬小屋を貸してくれた宿屋のような存在かも知れません。限られたスペースや職員配置を考えると、決して十分とは言えませんが、新しい命に希望が与えられ、再び旅に出る日まで、滞在していただければ幸いです。聖書では、その地方に住む羊飼いたちが、イエスが生まれた馬小屋を訪ねて来て、幼子と出会って喜んで帰って行きます。小羊学園にも、地域に住む人たちが代わる代わる訪ねて来て、重い障がいのある子どもたちに出会い、「お誕生おめでとう」と言ってくださると、みんなの心にクリスマスのような喜びが満ち溢れると思うのです。



|| 対談 ||

いかに「地域」に  
向き合うか

地域療育支援センターアグネス所長

雨宮 寛

理事長 小羊学園(児童療育青年寮)施設長

稲松 義人

小羊学園は現在、大きな施設整備(移転改築)事業を抱えています。日常的に行われている利用者への支援においても、常に新しい課題に直面しています。それぞれの施設に入所、あるいは通所しているメンバー一人ひとりにへの支援は当然の役割ですが、それに加えて在宅の人たちからのニーズを受け、それに応えるための働きという点で、地域療育支援センターアグネスが活動をはじめてから、より顕著になってきています。実際には、限りなく寄せられる要望に答えられず、一人ひとりが置かれている状況の複雑さに対応しきれずに苦しんでいるというのが正直なところ。今回は、少々愚痴のような話になるかも知れませんが、対談というかたちで現状を振り返ってみました。実情を知っていただき、ご一緒にお考えいただければ幸いです。

**稲松** 雨宮さんは、昨年小羊学園の施設の側において、在宅の方たちの相談を受けてきたのでしようが、今年度あらためて「地域療育支援センターアグネス」という立場で相談事業に取り組んで、どのような感想をもっていますか。

**雨宮** アグネスを担当するようになって半年が過ぎました。相談の傾向は、母体が児童福祉施設ということもありますが、相談者の八〇％は、障がいを持つ児童とその家族です。月々の相談件数は、「アグネスみなみ」も併せると延べ一八〇件程度になります。内容は、福祉サービスの利用についてというものから、子育てや療育、卒業後の進路・就労自立まで複雑多岐にわたっています。

感想としては、施設の立場から見ていた地域支援と、地域に入り込んでの支援では、見えてくる実情にかなりのギャップがあったことです。在宅生活者を対象として、相談を受けている以上、家庭や家族の状況理解が必要になります。家庭や家族の状況理解が複雑さ困難さに絶句してしまいます。施設として短期入所や日中一時支援の利用希望の多さに、受け入れる側の困難さや量的な不足は感じていました。しかし、家庭・家族の困難さを前にした時、支える術が少ないことを、より実感させられています。子どものハンディが、家庭や

家族のハンディとして二次・三次の問題を引き起こしてしまうのは、早期段階で、家族も含めた支援や継続的な支援がなされていない現状があるからだと感じています。

**稲松** 短期入所や日中一時支援というかたちで利用される方への対応という面では、入所しておられる方への支援との兼ね合いもあり、十分なことはできていないと実感しています。専用のスペースもなく、専任のスタッフも置けないような状況ですから、この点をまず改善しなければならぬと思っています。しかし、現実には在宅支援(短期入所、日中一時支援)の事業収入は全く不十分で、やればやるほど現場に負担を強いるということになっています。長期間滞在する短期入所なら



稲松 理事長

ば、特別な支援が必要なければ、ある程度採算が取れるような気がしますが、これはむしろ入所のニーズに添える枠がないということで、在宅支援とは言えないように思います。

また施設の利用を希望される状況にもかなり幅があり、一時預かりサービスという意味合いが強く、お預かりして約束どおりのサービスを提供するということでよい人から、ご本人のもつ課題を捉えて、課題解決に向けての過程を支援する必要のある方もいます。私自身は、後者が小羊学園の本来の役割だと思っていますので、学童保育であるとか、週末預かりのようなところは、それに対応するサービスが地域の中に整えられなければならないと感じています。実際に、十数年前に夏期特別デイサービスをはじめた頃に比べると、あちこちに支援を受けられるところが増えてきたと感じています。個々の事業所の現状をお聞きすると運営的にはやはり厳しいようすが……。

地域でのサービスということでは、施設で受け入れるという支援以外のサービスについての現状はどうでしょうか。

**雨宮** 家族からすれば、安心してお子さんを預けることができるのは、専門的な支援をしてもらえる施設のようなです。しかし、家庭で起こっている様々な課題を解決するには、施設は、一時しのぎの場ではないように思います。

よく施設や学校では大人しいのに、家に帰ると暴れてしまつて困るというお子さんの話を聞きます。施設と家庭とは、生活環境が全く違います。職員と家族では、子供への接し方も、甘えの受け止め方も許容範囲も違います。

在宅への支援として、家庭の中で直接支援を行うホームヘルパーがありますが、支援費制度導入以降、飛躍的に利用する方が増えました。新たに施行された自立支援法の中では、このホームヘルプに「行動援護」という支援内容が設けられました。家庭の中で行動上、課題の多いお子さんなどに対応するのが目的であったと思います。しかし、実際には、専門的な技量や経験が必要であり、高齢者を主な対象としてきたヘルパーの事業所には、指定を受けている所も殆んどなく、対応も困難というのが現状です。家庭で起きている課題に対して、相談支援事業所は、助言程度しかできません。しかし、必要だと感じているのは、助言だけでなく、問題のある場面で直接支援を行い、子供や家庭状況を共通理解しながら関わり方を示していくことだと感じています。そこに、障がい者の支援をしてきた施設のノウハウを、生かすこともできるのではないかと感じています。

**稲松** 以前、支援費制度ができたときに、ホームヘルプ事業は少し考えてみたこともありましたが、高齢者福祉

の場合と違って、利用希望と職員配置を調整することが困難と思われたので実施できませんでした。

障がい児のための在宅支援という面では、実態にそつてさらに制度として整える必要性を感じます。

相談を受ける中で、行政とやり取りする場面も多いと思いますが、特に地元の浜松市とのやり取りの中で感じていることはあるでしょうか。

**雨宮** 行政としての対応ということの前に、浜松市の障害福祉の現状を考えると、障がい者やその家族の実情を理解して、福祉計画が立てられているのかということに疑問を感じる場合があります。浜松市は大きな団体や企業もあり、経済的には決して条件的に不利な市ではないと思います。しかし実



雨宮 所長

際には、地域で暮らしている障がい者や家族の相談を受けていると、福祉サービス不足を感じてしまいます。結局、稲松さんが言われた在宅支援とは

言えない施設の支援に頼らざるを得ないのが現状なわけです。だから施設を増やせというわけではありません。当事者や家族の「困った」が解決していく仕組みがほしいのです。浜松市には、その仕組みが不足しているように思われます。行政は勿論、小羊学園を含め福祉法人、支援事業所、関係機関が一体になって、真に地域支援の仕組みを構築することはできないでしょうか。仕組みができれば必要な支援が見えてきます。当事者や家族から直接相談を受ける相談員たちが、一緒になって困っているだけでは、気休めにしかなりません。仕組みを変えないで、コスト削減だけが経営努力といわれる中では、それぞれの支援事業所が限界まで頑張るだけで、それ以上の効果は期待できません。

今は、浜松市の新プラン（案）に「希望を持って安心して暮らすことができるまちの実現」と書いてあることに期待するのみです。本当にそうなることを心から願っています。

**稲松** 国が福祉に直接責任をもつという措置費による福祉から、利用契約に変わる中で、地方行政にその責任が下ろされてきています。そのことから

地元各市町の福祉行政の影響が市民生活を大きく左右します。行政の役割は大きく見て二つあると思っています。

一つは、市民のニーズを徹底的に把握すること。もう一つは目指すべき地域（まち）の姿を指し示すことです。言い換えれば、市民の生活がどうなっているのかを知ること、今後市民にどんな生活をしてほしいと思つているのかを示すことです。そのためには、統計や経済的な数値によるデータだけではなく、現場からの意見を有効に活用していくシステム（ボトムアップの発想）をもたなければ、本当に効率的な福祉計画はできないと感じています。

**雨宮** その意味では、施設においてもまた、利用者と直接関わっている現場から具体的なアイデアとして提案できるようなしなればならないと思いますがどうでしょうか。

**稲松** まったくそのとおりです。特に施設という限られた空間で、限られた人数の利用者に対してだけ支援をしていくのではなく、地域に住む多くの利用者の持つ問題に向き合つていこうとすると、現場からのアイデアと情報を大切にしなければいけないと感じています。小羊学園でもそのための構造改革がさらに必要なのでしょう。これからも宜しく願います。ありがとうございます。

「コミュニティの再生をめざす」⑤  
**移転先用地の  
 売買契約しました**

自分たちの力だけでは成しえないことを知りつつ、小羊学園の移転改築に取り組んでおります。戦後の貧しい時代、十分な制度もない中で社会福祉の礎を築いてこられた大先輩に相談すると、「安心して取り組める事業は一つもなかった」とか「予定通りいくことの方が珍しい」とか、実際の体験に裏付けられた心強い励ましの言葉をいただきました。また、つのぶえに実情を訴えたお願いの文章を掲載させていただいただけで、何人もの方たちが心配して声をかけてくださったり、実際にご献金をお送りくださったりと、小羊学園が多々の方々に支えられていることをあらためて実感しました。

一月初旬、予定していました移転先用地を譲っていただくことになっていました地主さんとの間で、土地の売買契約を締結しました。現在の小羊学園から徒歩で五、六分のところにある平坦で日当たりのよい土地です。現在は農地になっていますが、すでに土地利用に関する手続きも終わることができました。

いよいよ目に見えるかたちで、移転改築事業が動きはじめました。心からの感謝をもってご報告いたします。



建設用地。後方に見えるのは聖隷クリストファー大学。その手前の低地に現在の小羊学園が隠れています。

**小羊学園のキャンドルサービスのご案内**

とき：12月14日(金)午後6時半～8時  
 ところ：遠州栄光教会三方原礼拝堂  
 (小羊学園を北へ200m)

これまで小羊学園青年寮ホールで開催してきた小羊学園のキャンドルサービスを、今年は新しい会堂ができたばかりの三方原教会でさせていただくことにしました。重い知的ハンディのある人たちとともに、心安らかなクリスマスのひとときを分かちあってみませんか。どなたでもどうぞ気軽にご参加ください。また、聖歌隊としてご奉仕いただける方も募集いたします。

お問い合わせ：小羊学園(053)437-0826  
 担当：稲松、出水



**各施設のクリスマスの日程**

- 支援センターわかぎ (電話：053-587-2614)  
12月19日(水) 午後2時～
- オリーブの樹 (電話：053-582-3415)  
12月21日(金) 午前10時～
- 小羊デイケアホーム (電話：053-438-1498)  
12月21日(金) 午後1時～
- マルカート (電話：053-427-0706)  
12月21日(金) 午後1時～
- つばさ静岡 (電話：054-249-2830)  
12月22日(土) 午前10時半～
- 小羊学園児童寮・青年寮 (電話：053-437-0826)  
12月22日(土) 午後1時～



**編集後記**

急に寒くなりました。インフルエンザの予防接種をしたり、毛布や防寒具を準備したり、温かな静岡県ですが、それなりに冬支度をします。そして小羊学園ではクリスマスの担当職員が相談を始めました。「ひよっとすると今の青年寮ホールでのクリスマスは最後かも知れない」という意見も出ながら、まだかたちにならない建物のイメージはなかなかもてません。場所やメンバーが変わっても、小羊学園らしいクリスマスをもちたいと思います。温かな心が感じられる地域(世界)になりますように。皆様にも平安で喜びに満ちたクリスマスをお過ごしください。(I)

**支える会だより**

**移転改築のための特別募金の報告**

特別募金のお願いパンフレットの発送の準備に時間がさげず予定より遅れていましたが、それを待たずにご心配くださる方たちからの献金が寄せられています。本当に大きな励ましを与えられています。小羊学園家族会からは積み立てておられた資金の中から多額の寄付をいただきました。12月は例年最も多くの皆様のご献金くださる月ですが、今年もご協力いただければ幸いです。今回も、心からの感謝をもって中間報告をさせていただきます。



**小羊学園・移転改築計画にご協力ください**

(口座名義)「小羊学園を支える会」  
 郵便振替口座 00890-4-45415  
 リソナ銀行浜松支店 (普通) 040005  
 静岡銀行細江支店 (普通) 043483  
 必要があれば、募金のお願い(振込用紙)を、お送りいたします。下記へご連絡ください。

問い合わせ先：小羊学園  
 〒431-1304 浜松市北区細江町中川7440-1  
 電話 053-437-0826

## ごあいさつ

クリスマスにあたって、この一年のご厚情に感謝しつつ、喜びのご挨拶を申し上げます。そして2008年が皆さまにとりまして、希望に満ちた一年になりますように、心からお祈り申し上げます。

社会福祉を取り巻く環境が急激に、また大きく変わっていく中で、そのことへの対応については小羊学園でも苦労しているところです。多くの皆様からの励ましと温かいご支援を受けて、また関係する方たちのご協力やご助言を受けつつ過ごしております。

今年の3月9日、小羊学園を故山浦俊治先生とともに創立された、山浦明子先生を天国へとお送りしました。小羊学園での仕事を引退された後も、小羊学園を支える会の実務を助けてくださり、晩年十字の園で療養生活を送られる中でも、祈りと励ましをもって私どもを支えてくださいました。残されました私どもは、時代の変化に立ち向かうとともに、変わることはない小羊学園の創立の心をしっかりと継承しなければならないと感じております。

静岡市に開園しました重症心身障害児(者)施設つばさ静岡も、開園から2年を過ごしました。時代的には向かい風の中でしたが、何とか飛び立つことができたかと思っております。これからも、関係する皆さまのご協力と地域の皆さまのご支援を受け、ますます希望のつばさを広げることができよう努力したいと思っております。

また、困難な状況の中、皆さまから励ましを受けつつ11月末に着工しました小羊学園（児童寮・青年寮）の移転改築は、竣工までにはまだまだ課題が多く、決して楽観できるものではありません。しかし、小羊学園の歩むべき道と信じ、最後まで信念をもってやり遂げたいと思っております。

浜松地区では、児童寮・青年寮、支援センターわかぎ、オリーブの樹、マルカート、小羊デイケアホームなどの施設、相談調整を担当していますアグネスが協力し、さらに地域にあります多くの関係機関とも連携の輪を広げつつ、地域福祉の進展に努めたいと願っております。

来たる年も変わりませず、皆様のご指導、ご協力を心からお願い申し上げます。

2007年12月

### 社会福祉法人小羊学園

理事長、小羊学園児童寮・青年寮施設長	稲松 義人
理事、小羊学園事務長	山崎 陽司
理事、つばさ静岡所長	山倉 慎二
理事、つばさ静岡事務長	羽山 純
支援センターわかぎ・オリーブの樹施設長	松原 康好
支援センターわかぎ事務長	小原 英世
マルカート・ドルチェ施設長	古橋 誠
小羊デイケアホーム施設長	出水 巖生
地域療育支援センターアグネス所長	雨宮 寛
小羊学園法人事務センター長	池谷 慎人
他 法人施設職員一同	

昨年までは、クリスマスカード（絵はがき）をお送りいたしましたが、今年から、つのはぶえの紙面でご挨拶をさせていただくことにしました。カードを楽しみにして下さっていた皆さまにはおゆるしくください。裏面のアドベントカレンダーは、毎年工夫をこらしたいと思っております。小羊学園とともに、クリスマスをお祝いくだされば幸いです。

# クリスマスおめでとうございます

クリスマスの季節がめぐってきました。  
今年もいろいろなことがありましたが、  
小羊学園が支えられたことを感謝します。  
今年、お別れした大切な人のことを思い浮かべ、  
また、新たに出会った人のことを心にとめて、  
クリスマスの喜びを分かち合いたいと思います。

しかし、今も苦しみの中で、  
あるいは痛みをこらえて、  
生きている人たちがいることを  
忘れるわけにはいきません。  
そんな人に神さまの慰めと  
励ましをお与えください。  
そして、すべての人に  
平安があるようにお祈りします。  
私たちには小さな力しかありませんが、  
そんな人たちのために  
働くことができれば幸いです。



## アドベントカレンダー

教会暦では、12月2日からクリスマスまでをアドベントといいます。  
毎日、このツリーの飾りの日数にそって一つずつ色をつけてください。  
クリスマス（25日）に、素敵なツリーが完成します。